

第7回 第5分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成17年9月12日 午後7時00分～午後9時10分	記録者	【学生補助員】 竹前、旗野
		責任者	区事務局（松浦、池田）
会議出席者：25名 傍聴者1名 （区民委員：17名 学識委員：2名 区職員：6名）			
<p>■配布資料</p> <p>①第6回会議録</p> <p>②ワークシート（9月12日）</p> <p>③「新宿区民会議」と「地区協議会」の比較</p> <p>④第7回グループ分け一覧</p> <p>■進行内容</p> <p>1. はじめに</p> <p>2. 廣江先生より</p> <p>3. グループワーク「文化について」 （異文化も含めてこれからの文化についてどうあるべきか）</p> <p>4. 発表・意見交換</p> <p>5. まとめ</p> <p>■会議内容（●：区民委員、◎：学識委員、○：区職員）</p> <p>1. はじめに</p> <p>○：配布資料の確認（4点）</p> <p>本日の進め方について</p> <p>事前にお知らせしたとおり、本日は文化についてグループワークをしていただきます。はじめに、廣江先生にお話しをしていただき、グループワーク、発表、意見交換、最後にまとめ、という進め方にしたいと思います。</p> <p>今回のグループについては、世話人の方々にもご相談し、皆さんが交流できるように、4つのグループに事務局で機械的に割り振りをさせていただきました。今後、ずっとこのグループで行う訳ではありませんが、数回はこの形で行いたいと考えています。また、今回もグループワークの時に、区民委員の方に司会を担当していただきたいと思います。前回の続きという事で、同じ方をお願いしてもよろしいでしょうか。（了承）</p> <p>それではまず、廣江先生に導入としてお話ししていただきたいと思います。</p>			

2. 廣江先生より

◎：この分科会は「産業、文化・観光」となっていますが、私はそれらが別のものではないと考えています。3つを総合して考え、さらにそれぞれがどのような特色をもっているかを議論していただき、区に対し新しい提案をしていただきたいと思います。少し違った視点で見るために、色々な材料を出したいと思いますが、さしあたりご近所である墨田区の例を出してみたいと思います。

墨田区は、感覚的に下町と言われていますが、本当は少し違います。墨田区でも、同じように基本構想を議論しています。議論のプロセスは、全て墨田区のホームページに出ていて、その事について話を聞いてきたのですが、おもしろいなと思いました。まず、自分達の生活を守るのは区民の皆さんです、区に頼らないで下さい、という事がはっきりしています。そして、まちづくりの考え方に、5本の柱があります。1. 市や町を作るのは区民自身である、働く者が計画者である、ということ。2. まちづくりは地域社会での共同生活が大切だという区民の自覚に始まること。3. どんなまちづくり構想も区民の連帯意識なしには成長しない。4. まちづくりの目標は住む事に喜びを感じ、そこが故郷になる事である。5. 将来の墨田区の姿は新しい庶民のまちというイメージである。

これらが5本の柱になっていて今、具体的な議論が進んでいます。その中でこういう一節があります。ちょうど私達の分科会と同じ内容ですが「働く喜びと豊かな活気ある産業のまち」というところです。「墨田区は中小企業のまちであり、庶民のまちである。産業はお互いに協力し合って活動し、区の経済、生活、文化を支えている。」となっています。ここで、文化を支えているとはどういうことですかと聞いたら、区の産業振興担当の方は「私達のまちはもともと産業活動と生活が密着していたし、その中に職人的文化とか、新しい音楽やITなどの文化活動があり、錦糸町界隈の再開発などに代表されるように、歴史を踏まえた、新しい文化活動が生まれてくるまちにしよう、としています。これは生産活動を基盤にしてやっていかないと、結局お金がなくできないということになりますよね。」とおっしゃっていました。こういう事は非常に良い視点だなと思いました。しかし、実は、墨田区は大きな失敗をしています。墨田区の計画が載っている「イーストサイド」という本があります。いつ出たかというと、昭和62年、ちょうどバブル期に出版されたものです。どういう構想かというと、原宿あたりにアパレルメーカーの生産拠点が、マンションメーカーと言っていたのですが、それが移って来て、伝統的な墨田区のニット産業と一緒に一大生産拠点ができました。ここをアジアのファッション産業の拠点にするために、大規模な投資をしようという計画がありました。しかし、バブルが弾けて、当事者であるアパレルメーカーがどんどん倒産してしまっただけで、東京都も計画を縮小し、考え方も変わりましたが、いくつか遺産もあって、日本で唯一ファッション関係のビジネススク

ールがあったり、両国界隈の再開発をしたりしています。今は、生産拠点とまちが持っていた生産活動をつなげていこうという事で色々な事を行っています。ここに、まちのパンフレットがあります。「墨田新発見 小さな旅」というタイトルで、一覧表になっています。墨田区は、羽子板やガラス工芸といった伝統的な産業が残っており、近代的な化学産業もかなりあるので、こういうものを生かして地図に落とし込んでいます。つまり、生活を支えるためのどのような生産活動があるのか、それがどのようなまちの姿を生んできたのか、そしてどのような文化活動があるのか、などが描かれています。そしてまちめぐりを全地域でやっているそうです。例えば、11月に行うのは「墨田区ものづくりと落語に親しむ旅」です。押上コースを例に取ると、博物館、ガラス産業、勝海舟像とめぐり、最後に落語を聞きます。こういう事を通して、まちの姿を検証し、区が持っている歴史の棚卸しをして、そこから何をやろうかと考えています。墨田区はそれを「3M運動」と呼んでいます。3M運動とは何かと言うと、産業活動が基盤になって、どういうまちになっていくかという事です。墨田区は中小企業のまちであって、中小企業がネットワークをはって、まちの元気を支えていこうとしています。3Mの一つ目は、ミニ博物館です。以前からやっていますが、例えば、ちょうちんを作っている店の一角をミニ博物館とするという事です。2つ目に、マイスター制度（職人・親方の技能を評価し、引き継いでいこうとする制度のこと）です。3つ目に、モデルショップをたくさん作る事、成功事例を生んでいくという事です。事業支援のための企業塾も開かれています。区としては異例で、受講者は一講座10万円の費用がかかります。区担当者に聞いたところ、そのお金の元がとれる内容を提供しているそうです。つまり、単に生産活動のまちではなくて、そこで生まれた文化を意識し、検証しながら、新しいものを創っていく、という事をまちをあげて行っていく、その結果、住みよいまちを作っていくという事です。江戸川区でも同じような施策を行っています。デザイン系の各種学校の学生と協力し、例えば、役者絵を描く学生にトランプを描かせて、名古屋空港で販売し、売り上げが出たら一割を学生へ還元しています。産業活動とまちめぐりが、うまく結びつくと観光資源になり、その上で新しい文化活動、古い文化活動の継承をやっていく。これらの上に独自の新しい文化、産業、観光が生まれていく。文化、産業、観光の根っこはひとつなのです。このことを皆さんに議論していただきたい。例えば、どういう産業が元気になれば新宿区の観光がよくなるのか。あるいは、観光をきっかけにしてどういう産業、文化活動がよくなるのか。こういうことをきちんと議論していけば、新宿区に対して良い提案ができると思います。札幌市は、文化がなかなか根付かないまちと言われていました。新しいクリエイターを育てるために映画産業を活性化させようと、駅の上に映画館を作り賑わっています。そして、映画館で映画を見るだけでなく、「場所にはストーリ

一がある」という観点から、札幌市のさまざまな地域をイメージして、若手にショートショート（短編映画）を作ってもらい、そこで発表しています。新宿でも、23～24時を過ぎると使われていない映画館があり、もったいない。新宿は眠らないまちでもあるので、その時間を若手の映画発表の場にうまく使えたら、人がもっと集まってきて、新宿が映画を生んでいく一大都市になるかもしれない。それをどういう産業施策、文化活動、観光資源にしていくのか。ひとつの事からどういう花を咲かせていくのか。同じ根っこを上手く使いながら、3つの異なった花を咲かせていきましょう。文化、産業、観光は分けて考えず、同じだと言う視点で、皆さんで考えていきましょう。

3. グループワーク「文化について」

○：これからの文化はどうあるべきか、ということでしたが、文化だけにとらわれず考えていただきたいと思います。各自一枚ずつワークシートを配布しましたが、各班一名の方は事務局へ記録用として提出して下さい。あくまで記録用で、皆さんには配布はしません。メモ書きや箇条書きで構いませんので、ご協力お願い致します。それでは司会の方よろしくお願いします。

司会：神楽坂から参りました。よろしく申し上げます。前回について簡単にご報告します。前回は、リーダー・サブリーダーを選出するというテーマのもと、私が司会をさせていただきました。そして、リーダー・サブリーダーを選出する前に、今までの会議のやり方を一度おさらいする事から始めました。そして、これまでのように産業・文化・観光の3つのグループに分けるのではなく、事前に産業・文化・観光から一つテーマを設定し、次回までに、そのテーマについて各自である程度考えてきてもらう、それをもとに当日話し合う、というやり方に決まりました。今回のため設定した「文化」というテーマについては、区から通知が届いたと思います。「文化」という広くくりではなくて、具体例という事で神楽坂の「まち飛びフェスタ2005」を紹介したいと思います。今後も他の方がやっておられる活動等をご紹介していただければと思います。配布したパンフレットにも載っている実行委員会は、学生、新住民であるサラリーマン、商店主、広告制作会社の社長など、種々雑多な人たちが集まって構成されています。こうした人たちがこの催しを企画しました。今年で6回目になりますが、元々は神楽坂の地域雑誌を発行していた方が提唱して始まったものです。この方はすでにお亡くなりになり、今は私が地域雑誌を発行しています。パンフレットの中には、およそ65のテーマが設定されていますが、私は11の企画に関わっています。その中の一つが「第5回神楽坂落語祭」です。3年前に、神楽坂の毘沙門様で落語が行われたのを見て、神楽坂は落語の似合

うまちなのだと感銘を受け、皆に呼びかけてネットワークを作り、去年は11の落語を行いました。定員20名くらいの喫茶店や、定員40名くらいの居酒屋などで、開いています。銀座の方では、「銀座落語祭り」をやっており、非常に大きなホールで行っているのに対し、神楽坂では、非常に小さな居酒屋やカフェでやっています。定員は一番多くても100名くらいの所です。専門家によると、落語は、関西では大きな会場で行いますが、江戸では非常に小さい所でやるのが元々の形なのです。その点では、銀座に比べて、神楽坂の方が、江戸の伝統を受け継いでいるなと思っております。

神楽坂というまちは、歌舞伎浄瑠璃の人間国宝の方がいたりする一方、フランス人居住者が日本で一番多いように、古い伝統的なものと新しいものが、違和感なく混在しています。これらが互いに、市民フェスタを通じて刺激しあう事はまちにとって良いことなのでは、という観点でも行っています。スポンサーというものはほとんどありません。地元の大学や商店まちがカンパしてくれたりしていますが、そのほとんどがパンフレットの製作費です。あとは自主運営の企画を、まち中でネットワーク化して神楽坂から発信しています。一番のメインイベントは「坂にお絵描きを」というもので、今年の10月16日に行います。神楽坂で、坂下に位置する外堀通りから、坂上に位置する東西線の神楽坂駅まで700mの坂道に、一枚90cmの紙を敷き詰めて、子供も大人も外国人もが自由に即興で絵を描いて残していきます。絵の具などはこちらで用意しています。午後1時から4時くらいまでの約3時間で、紙のキャンパスが満杯になります。このように10月16日をピークに、10月1日から毎日イベントが行われます。以上ご紹介をいたしました。

それでは、ランダムに分けた4つのグループでディスカッションした後、それぞれの話し合いの内容を発表していただきたいと思います。これから1時間弱ですが、よろしくお願い致します。

(4班に分かれて、グループワーク)

4. グループ発表・意見交換

司会：8時半になりました。それぞれのグループでのお話しを共有したいと思います。短い時間で恐縮ですが、各班3分でお願いします。

- (1班)：ほとんどメモを取ってなかったのではまとまった話ができるかわかりませんが、ご了承下さい。阿波踊りなどの大きなイベント、伝統文化を、どのように見せるかという問題もありました。3つのテーマを地域に根ざした問題として話していこうという事になりました。新宿といってもその中に多様な地域性があり、様々な方がお住まいです。例えば、産業という面を考えても、落合には

染色を手作業でされている方もいれば、マンションの一室でITを駆使して情報産業に携わる方もいる。それらが、それぞれの地域で、地域の暮らしを良くするエンジンになればいいと思います。神楽坂や大久保などでも、地域的に努力がなされています。イベントが持続的に行われるように施設面などの応援をしてもらえば、新宿も活性化するのでは、という意見が出ました。また、小さな活動をたくさんやるよりも、日本を代表する大企業もある新宿なのだから、何か大きなイベントをやった方がいいのではないかという意見もありました。阿波踊り等のイベントが、今後、どこまで定着するかも含めて、もう少し検討したいと思いました。

- (2班)：私たちは、文化でもその地域に今ある文化を出し合いました。例えば、落合地域の御霊神社のお祭りであるとか、新宿大通りでパレードが年間8本行われているとか、今あまり使われていない初台の新国立劇場とか、そういう話をしました。そのような新しい文化や昔からある文化を、どう生かしていくかという話をしました。一過性に終わらせないことが重要で、そのためにはどうしたら良いかを話し合いました。例えば、花園神社や熊野神社で行っているお祭りであっても、一過性のものです。それを変えるために、例えば、新宿の鉄砲のお祭り、高田馬場の神社で行われている流鏝馬などのように、もっと宣伝をしたら良いのではないのでしょうか。しかし、宣伝にはお金がかかるので、小学校や中学校と連携してあまりお金をかけない宣伝をしたらどうか、という事も話し合いました。また、文化が根付くためには、住民の生活に根ざしたものを創造していかなければならない、さらに、新宿には地域センターなどの「箱物」がたくさんあるので、それらをもっとうまく活用して啓発活動をしたらどうか、というような話が出ました。以上です。
- (3班)：3班は、文化をいかにして現実的にお金にするか、いかにして文化と商業をつなげるかという側面から話し合いました。現在、歌舞伎町には、落語、映画、演劇、ライブハウス、その他あって、一番の興行都市になっています。新宿には紀伊国屋ホールや、シアタートップス、厚生年金会館等があり、興行を行うのに一番良いまちだということです。また、他に文化としてどのようなものがあるか考え、文化財はどうだろうと話しました。4人のメンバーからだけでも、投げ込み寺、内藤新宿などの、お寺や史跡をたくさんあげられました。しかし、共通している事は興行にしても文化財にしても、時代もありますが、どうしても点から点への移動になりやすい。一方、浅草の仲見世を見ると、お参りの前にはどうしてもお店の前を通る、という線の移動が出来ていて、商業が潤った上にお参りができる。観光地というのは、かくあるべきだと思うのです。いかにして新宿に今あるものをアピールしていくべきかが重要であり、また浅草仲見世の例のようにまち全体の統一感をもつべきである、という事が話

されました。新宿区は見る角度を変えれば、世界有数の観光都市になると感じます。古いものも、新しいものも、たくさんある。しかし、新宿が興行都市であり様々な文化財を抱えているという事は、歌舞伎町の怖さや高層ビルのイメージに隠れて知られていません。それらの文化をいかに広めていくかが重要で、活気を取り戻し、来場者を増やすための、必要なアプローチです。区の広報などは、私自身もあまり見ないのですが、もっと活用すべきだと思います。また、他の分科会では新宿区のこれまでの主な取り組みが説明されているようなので、この分科会でも次回に説明してもらい、資料を配っていただきたいという話も出ましたので、よろしくお願いします。

- (4班) : まず初めに、前回、基本構想を読んでくる宿題を頂いたので、私達の班では読んで話し合いましたが、基本構想の中身が少し分かりにくいと思いました。基本構想は、あまりにも総論に過ぎるので、基本構想とは何かもっと各論から理解すべきだと話しました。基本構想には、区民の活動、区民の存在が入っていないように思いました。もっと区民の意見や活動が盛り込まれるべきだとの意見が出ました。文化については、今日欠席された方から出た提案のように、熊野神社大祭りや花園神社のお祭り等をふまえて、春・夏・秋・冬それぞれの季節に何かセレモニーを立ち上げたらよいのではないかと思います。例えば、神楽坂のように、各地域のイベントを吸い上げて一覧表にしたら何かまとまりが見えてきて大きな力になるのでは、という意見がでました。神楽坂の阿波踊りも、新宿区役所や京橋など色々な町内会にも“連”があるので、高円寺の阿波踊りなどと交流を図り、またさらに多くの連を作っていけば、より盛り上がるのではないかという事が話し合われました。

司会 : ありがとうございます。終了時刻まで残りわずかですが司会が特にまとめることはございません。3班の発表で出てきた事ですが、ホームページで各分科会について新宿区の簡単な説明があるが、第5分科会の箇所にはないという事ですが、どういう意味ですか？

- : 区としてのこれまでの取り組みとか、産業、文化・観光に関する区としての現状の課題などあれば、共通の認識になるように5～10分でお話いただけたら、という提案です。ホームページに掲出するのではなくて、会議の場で区の方からお話ししてほしい、ということです。

司会 : 確か前回もそのお話は出て、大半の方が賛成したと思うので、次回に新宿区の方に10分くらいで簡潔に説明していただくという事で、お願いします。では、これで私の役割は終えて、後は学識の先生から、まとめと次回のテーマについてお話しをいただきたいと思います。よろしくお願いします。

5. まとめ

- ◎ : 発表していただいたお話を聞いていますと、3班の発表のように文化の話が観光につながっている、というような事は、話しをすればするほど出てくると思います。今後、それらを具体的な提案に変えていきたいとしますので、具体的な事実や数値に基づいてどう考えるのか、という作業をこれから一緒にやっていきたいなと思います。その意味で言うと、例えば、文化というとは何かがあるのかという事があります。色々なイメージがあってもいいと思いますが、どういう文化があるかという事を皆さんで調べ、まとめて、材料として持とうと思います。今日のお話しでは、傾向として文化がイベントという意味に終始しがちだったのですが、文化とイベントはどう関わってくるのか、イベントは一過性であるが、どのように文化として定着させるのか、など考えなければいけないと思います。また、4班から出た、イベントを一覧表にするのはおもしろいと思います。歌舞伎町でもイベントたくさんありますよね。皆さんは各地域から来ているので、できれば皆さんで自分の周りの地域ではこのような文化活動がある、というのをまとめて出していただけたらと思います。文化は、イベントでも文化活動、文化的な遺産でもいいと思います。それらを突き合わせてこの第5分科会の中での材料にしたいと思っています。文化とは何かという哲学的なテーマは後に話し合うとして、とりあえず、映画館はどの位あるのか、興行できる場所はどのくらいあるのか、演劇をやる場所はどのくらいあるのか、調べたいと思います。都内にある施設のなかで、新宿区が持つものはどれほどの割合を占めているのかなど。どのように調べればよいのでしょうか？
- : (インターネットの検索をかければわかります。)
- ◎ : どなたか調べていただけますか。
- : (了承)
- ◎ : お願いします。また、新宿にどのくらい映画館があるか調べてください。イベント、文化的な人物について、夏目漱石等、過去の作家や今の作家・音楽家などについても調べてください。身の回りの文化やイベントについて、各自でA4の紙1枚程度にまとめて次回、出して下さい。皆さんが自分で調べる、というのが重要だと思います。次回は区の方から10分程話していただきます。また、今日のテーマは「文化」であり、観光に重なっていたので、次回のグループワークのテーマは「産業」にしたいと思います。その上でもう少し具体的な議論の材料が欲しいという事はありますか？
- : 都市計画について、新宿駅を中心に大きく変わって行くようなので、資料があれば頂きたい。
- ◎ : それも重要な事ですが、新宿駅周辺だけではなく新宿全体について話し合わなければいけないので、それは意見としてもう少し先に扱いましょう。それから、

各地域別の商業統計を使って商業を10年前と現状を比べて調べて頂きたい。また、産業には大きく分けて、商業と製造業があります。製造業に携わっている方がいましたら、製造業についても調べてほしいと思います。町工場は印刷業が圧倒的に多いですが。製造業は、工業統計でわかると思います。新宿区のホームページに出ていると思いますので、これもどなたかにお願いします。工業と商業を除いたその他のサービス部門（金融業、サービス業、不動産業等）についても調べてほしい。事業所統計を見て、商業と製造業を除いたものがどれほどあるのか調べてみるができると思います。新宿には、金融業また不動産業が非常に多いです。またクリーニング屋さんのように個人を相手にしたサービスもたくさんあります。

- ： そうしたことについて、新宿区の方に資料は全部ありますよね。それを使ってもいいのでは？
- ◎： 新宿区が資料を持っていても、皆さんで自ら確認して加工していく事が重要だと思っています。統計的な数字は、皆さんの感覚と異なるかもしれません。その感覚とのズレや数字の背景を探るのが大切です。どなたか、皆さん次回に身の回りの文化について調べて出して下さい。よろしくお願い致します。作業について分からないことがあった場合は、私にメールを頂けると何かアドバイスができると思います。
- ： 班で出た意見なのですが、区の資料を読んでも、今まで紹介されてきた図書館での読み聞かせや、消費者団体の活動は全く分かりません。ホームページ開くと、地域で本当に草の根的に行っている活動を含めて、助成団体など小さいものもたくさん載っているのに、図書館の読み聞かせや消費者団体については載っていない。区が関わっていない活動も、もっと紹介されるべきです。草の根の文化についても、話し合っ欲しい。
- ◎： そういうものも含めて、出し合っ欲しいのです。イベントだけにこだわる必要はありません。簡単に区が資料を出せばいいという訳ではないと思っています。商業と工業以外のものを、どなたか調べていただけますか。10年位の推移を調べてください。たとえば数字が減少していたら、それが転業なのか廃業なのか統計を見ただけではわかりません。まず自分で確認することが重要です。では、次回は産業について、皆さんが持ち寄った資料を材料にして話し合ひましょう。

○： 事務連絡

<次回以降日程>

- ・ 10月17日（月） 19時～21時 新宿区役所 第一分庁舎 7階 研修室
- ・ 10月24日（月） 19時～21時 新宿区役所 第一分庁舎 7階 研修室

<お知らせ>

- ・第4回「新宿まちづくり学講座」

テーマ：環境都市と未来

10月19日（水）18時～21時 早稲田大学国際会議場3階第1会議室

- ・11月（日時未定）の第5回まちづくり学講座は「地場産業と観光」がテーマで、
廣江先生がお話される予定です。

以上